土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　その他河川　中小坪川　通常砂防事業に伴う業務委託（測量調査設計）

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.5	**調査位置**	広島県呉市広小坪一丁目 地内			**北緯**	34° 12′ 29.9538″
発注機関	広島県西部建設事務所【呉支所】			**調査期間**	2020年 9月 23日 ～ 2020年 9月 26日	**東経**	132° 38′ 16.3045″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 38.09m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90°
総削孔長	9.00m	**使用機種**	**試錐機**	東邦地下工機製 D1-B58型		**ポンプ**	東邦地下工機製 BG-3C型
			エンジン	ヤンマー製 NFD9-K型			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
1				礫混じり砂		暗褐	rd1			φ5～10mmの亜角礫を多く含むゆるいシルト混じりの細～中砂である。	09/24 上段 9.00 1.87
2	35.99	2.10									
3				玉石混り砂礫		褐灰	中位～非常に密な			φ10～20cmの角礫を多く混入、大礫の間は礫混じり砂質土が埋めてよく締まっている。	
4											
5											
6	32.19	5.90									
7				砂岩		暗褐灰～暗青灰				全体に砂質優勢な硬質ホルンフェルスである。 5.9～7.0mは暗褐灰色を呈す亀裂の多い岩盤でである。（CL） 7.0m～9.0mは暗青灰色を呈し、石英と黒色の泥質部が低角度縞状構造をなし、亀裂が多く10cm程度の短柱状～柱状コアとして採取される（cm）	
8											
9	29.09	9.00									
10											
11											
12											
13											
14											
15											

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
3	1.45	1	1	1	3/300		
	1.45						
79	2.15	15	35/90		50/190	190	
	2.34						
63	3.20	4	6	40/40	50/240	240	
	3.44						
24	4.15	5	8	11	24/300		
	4.45						
83	5.00	5	45/80		50/180	180	
	5.18						
	6.00	50/0			50/0		
	6.00						
	7.00	50/0			50/0		
	7.00						
	8.00	50/0			50/0		
	8.00						
	9.00	50/0			50/0		
	9.00						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					9/23
					9/24
					9/25
					9/26